

◆お名前/ご所属：児玉龍彦（コタマツヒコ）先生/東京大学先端科学技術研究センターがん・代謝プロジェクト

◆研究テーマ：全ての人が使えらる進行がんの在宅療養 Q and A サイトの開発

◆助成金額：40 万円

1：研究者になろうとしたきっかけ

医学生の頃に、日本人の死因のトップである動脈硬化とがんの治療薬を作りたいと思いました。スタチン開発の遠藤章先生、MIT ではハウズマン教授のゲノム科学にふれ、留学からビザ切れ帰国の飛行機の中でスカベンジャー受容体をクローニングし、Nature の表紙になる論文を書くことができ、研究者になりました。

2：助成研究の内容紹介

がんになると、最初の診断、再発・転移を告げられたとき、末期を迎えるときに「何を信じていいかわからない」という悩みにあたります。今のがんは家での療養が中心になるなか、当事者や家族に本音で答え、判断の助けとなる WEB サイト「在宅がんウィット」<https://ganwit.jhocc.jp/> を、最新の情報技術を駆使して開発しています。

3：2の将来に繋がる結果予想・目標

「人と繋がり、価値ある生活の場としての家」でのがん療養が「在宅がんウィット」の考え方の基本です。従来あるがんの情報サイトは、「あなたは医療従事者ですか」というバリアーを置いています。「在宅がんウィット」は末期までの緩和ケアを進めつつ、重粒子線治療、ゲノム医療、分子標的薬、低侵襲治療まで、全ての人に情報が開かれています。

「在宅がんウィット」は、最先端のがん医療、看護・介護の WEB 上の情報と、がんを家で療養する人、それを支える家族の間を繋ぎ始めています。2022 年度中に 1 日 1000 人のアクセスを目標としていましたが、12 月に既に達成し、更に前に進もうとしています。

4：全国の RFL 関係者に一言メッセージ

がんと言われても、再発・転移と言われても、末期と言われても、人生は輝いています。がんの中で生きるすべての人々、そのご家族やまわりの方、あなたは一人ではありません。